

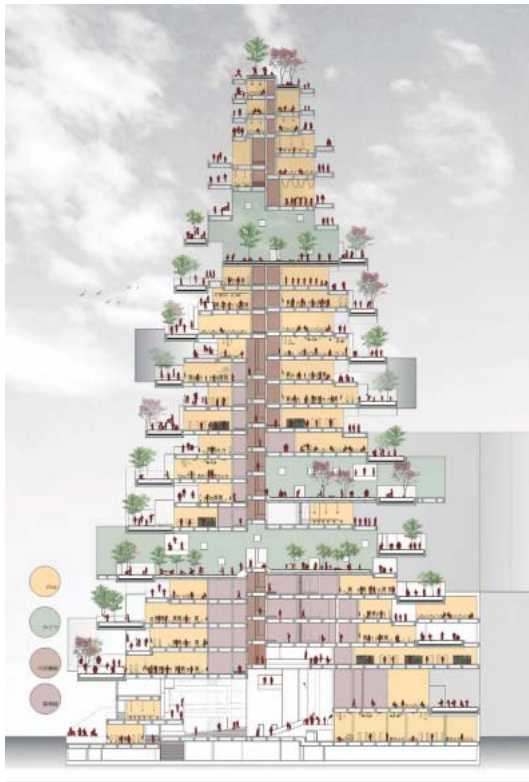


Green Spiral

都市型公園

上坂 勇樹 (うえさか ゆうき)

千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科



この計画は都心における公園の提案である。

都会には数多くの建築が、隙間を埋めるように存在している。計画地である、東京都新宿区1丁目1-5でも同じ現象が起きている。人々は立ち止まることも、休むことも許されずに、ただ目的地に向かって歩き続けている。そんな都会に、人々が休むことのできる公園を、立ち止まり話すことのできる公園を計画した。

上に伸び続けるスロープ型の公園とボックス型の公園を公開空地として計画する。用途は商業施設にし、公園に沿うように配置する。これらの計画により商業と公園が2重、3重の螺旋を描きながら登り続ける立体的な公園となる。

この計画で、都市における空地の価値、公園の価値、そして人が留まることの価値が再認識される。



講評 何枚ものレイヤーがボリュームを得た様な、それでいて緑を纏った塔の様な造形に目を奪われた。作者は、公園を立体化させ最少の敷地で多くの人に利用して貰う事を提案した。作品を注意して見ると大よそ3層に1箇所「塔」を貫通する直方体のボイドが挿入され、建物(公園)の楽しみ方を増幅させている。

この建物(公園)は、多様な可能性を秘めているにも関わらず敢えてここで交流する人々にアミューズメントを任せるとして、押しつけがましい言語を封じている。

ただそうであればこの建物(公園)の中に、湖(池)や橋、土手の様な場も計画出来たら都市に対するアンチテーゼとして依り深く認識されたかも知れないだが、この発想の終着点は無限大に思える。

(審査員: 山下 勲)

